



2024年4月25日

各 位

会 社 名 株式会社ダスキン
代表者名 代表取締役 社長執行役員 大久保 裕行
(コード番号：4665 東証プライム市場)
問合せ先 執行役員 経営企画部長 井出 丈晴
電話 06-6821-5071

取締役会の実効性に関する評価結果概要についてのお知らせ

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図ることを目的として、取締役会全体の実効性に関する分析・評価を実施いたしましたので、その結果の概要について下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 分析・評価の方法

- (1) 取締役会は、すべての取締役、監査役に取締役会全体の実効性に関する分析・評価を実施する趣旨等を説明、理解を得た上で、第三者機関によるアンケートを実施いたしました。

実施期間	2023年12月15日～2024年1月15日
評価対象期間	2023年4月～2023年11月に開催した当社取締役会（全13回） ※会社法第370条に基づく決議1回を含む。
アンケート質問概要	取締役会の在り方、構成、運営、議論、モニタリング機能、取締役のパフォーマンス、取締役・監査役に対する支援体制、トレーニング、株主（投資家）との対話、自身の取り組み、取締役評価検討会の運営等

- (2) アンケート結果集計の後、取締役会から諮問を受けた「社外役員会議」（独立役員に指定している社外取締役全3名・社外監査役全3名で構成される会議）が、集計結果を基に、対象期間における取締役会の取り組みについて多角的視点から分析・評価を実施し、取締役会に対して、2024年3月期中の総括及び2025年3月期に取り組むべき課題の提言を行いました。

- (3) 社外役員会議からの提言を基に、更なる実効性向上に向けて取締役会にて討議いたしました。

2. 評価結果の概要

分析・評価実施期間	2024年2月9日～2024年3月27日
取締役会の実効性について	<ul style="list-style-type: none">・取締役会では、十分な審議を基に当社グループの経営上の重要事項の決議がなされている。・また、重要な意思決定を行うだけでなく、討議時間を設けて経営課題についての議論がなされている。・取締役会全メンバーが出席して、「経営戦略会議」が定期的で開催され、中長期的な経営戦略について建設的討議が実施されている。・業務執行の迅速化を図るために取締役会から権限委譲している「執行役員会議」、各事業部門の予算執行状況やその乖離状況を的確に把握し対応策を協議する「予算進捗会議」、その他業務執行上の重要な会議には、必要に応じて社外取締役もオブザーバー参加して積極的に意見を述べる等、業務執行の監視、監督面の実効性も確保されている。・取締役会の諮問機関である各種委員会・会議は、透明性、客観性が確保され、適正に機能している。・毎年、前年度評価を行い、課題を抽出した上で、更なる実効性向上に向けた取り組みに注力している。

(1) 前年度の課題に対する取り組み状況

2024年3月期の課題	取り組み状況
<p>企業価値向上のための事業ポートフォリオ議論の深化を図る。</p>	<p>①株式会社JPホールディングスや健康菜園株式会社等、将来的な事業拡大を目指す新規投資を実施した一方、洋服等レンタルのサブスクリプションビジネスから撤退し、取得目的の達成が困難と判断した株式会社EDISTの解散を決定した。 ②事業の選択と集中の議論のベースとなる状況把握・分析が進んだ。</p>
<p>必要な検討プロセスとスピード感を持った意思決定</p>	<p>事業ポートフォリオの議論・意思決定を迅速に行うための、事業を横断的に見る組織・機能の一段の強化が必要ではあるものの、取締役会での議論深化は図れた。</p>
<p>生産性・効率性向上のための組織横断的なデジタル戦略</p>	<p>①RFID（電子タグ）導入を計画に沿って進めた。 ②外部要因によってデータセンター移行を優先せざるを得ない状況となったが、クラウドへの移行、生産性・効率性につながるデジタル戦略の議論は概ね計画に沿って進捗した。</p>
<p>経営課題の解決・コミットメントを意識した人事・評価制度を検討する。</p>	<p>経営層の実行力・変革を意識するためのメリハリの利いた評価・中期視点に立った評価に対する議論は深化した。</p>
<p>「取締役評価検討会」の情報共有と課題の共有</p>	<p>人的資本経営をモニタリングする観点から、業績評価制度・次世代育成等について取締役評価検討会で協議し、取締役会でも議論した。</p>
<p>資本市場からの理解度を深めるための議論の充実</p>	<p>重点課題である「人的資本経営とR&D強化」の実行力を高める進捗確認や課題の議論を行った。</p>
<p>資本市場からの理解度を深めるための議論の充実</p>	<p>IR担当部門より、資本市場における当社の状況や機関投資家の反応等、定期的に報告がなされ、企業価値に関する議論深化も図った。</p>

(2) 2025年3月期の取り組み

当社取締役会は、今後も取締役会全体の更なる実効性の向上を目指した不断の議論を継続してまいります。2025年3月期につきましては主に以下について取り組んでいくことといたします。

- ①事業ポートフォリオの最適化と企業価値向上の議論を継続する。
 - イ. 持続的な収益性確保と共に、資本コスト観点からの事業別精査を継続して行い、選択と集中に関する議論を通して将来の事業ポートフォリオ構築に向けた議論の深化を図る。
 - ロ. 生産性・効率性向上に資する組織横断的なデジタル戦略を進める。
- ②経営責任明確化のために役員評価制度の見直しを検討すると共に、従業員育成による多様な幹部候補の発掘を図る。
 - イ. 経営層（執行役員含む）の評価制度を引き続き優先課題と位置付け、議論を継続する。
 - ロ. 従業員各自の成長意欲を向上させ、女性及び若い世代の幹部候補を発掘する。
- ③社会との共生に向けた議論を充実させ、更なる企業価値向上を図る。
 - イ. サステナビリティ経営に関する中長期ビジョンの議論を加速する。
 - ロ. サステナビリティ課題・対応状況等に関する説明を充実する。

以上

本件に関する報道機関からのご照会は、以下へお願い申し上げます。

株式会社ダスキン 広報部 電話06-6821-5006